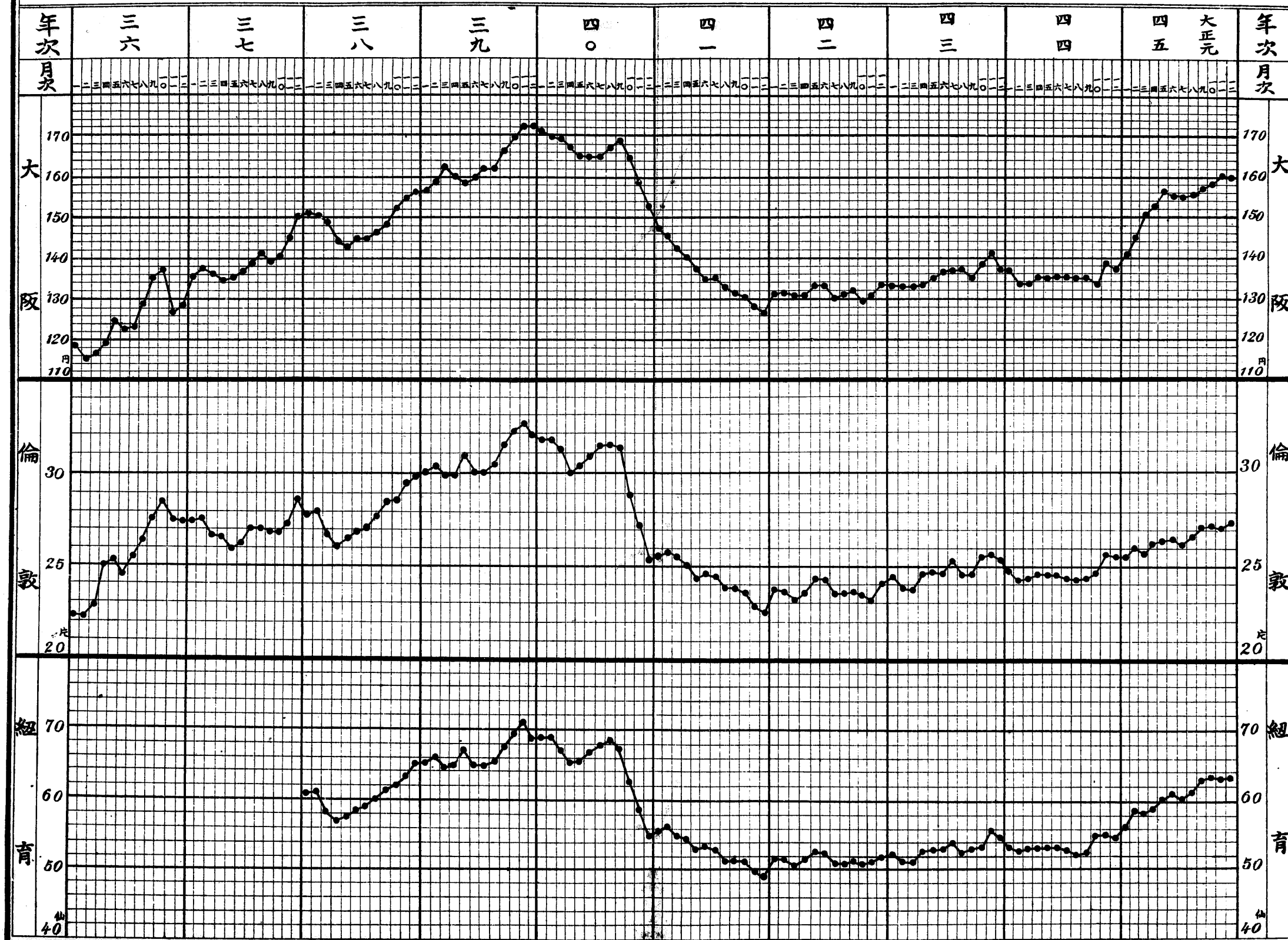


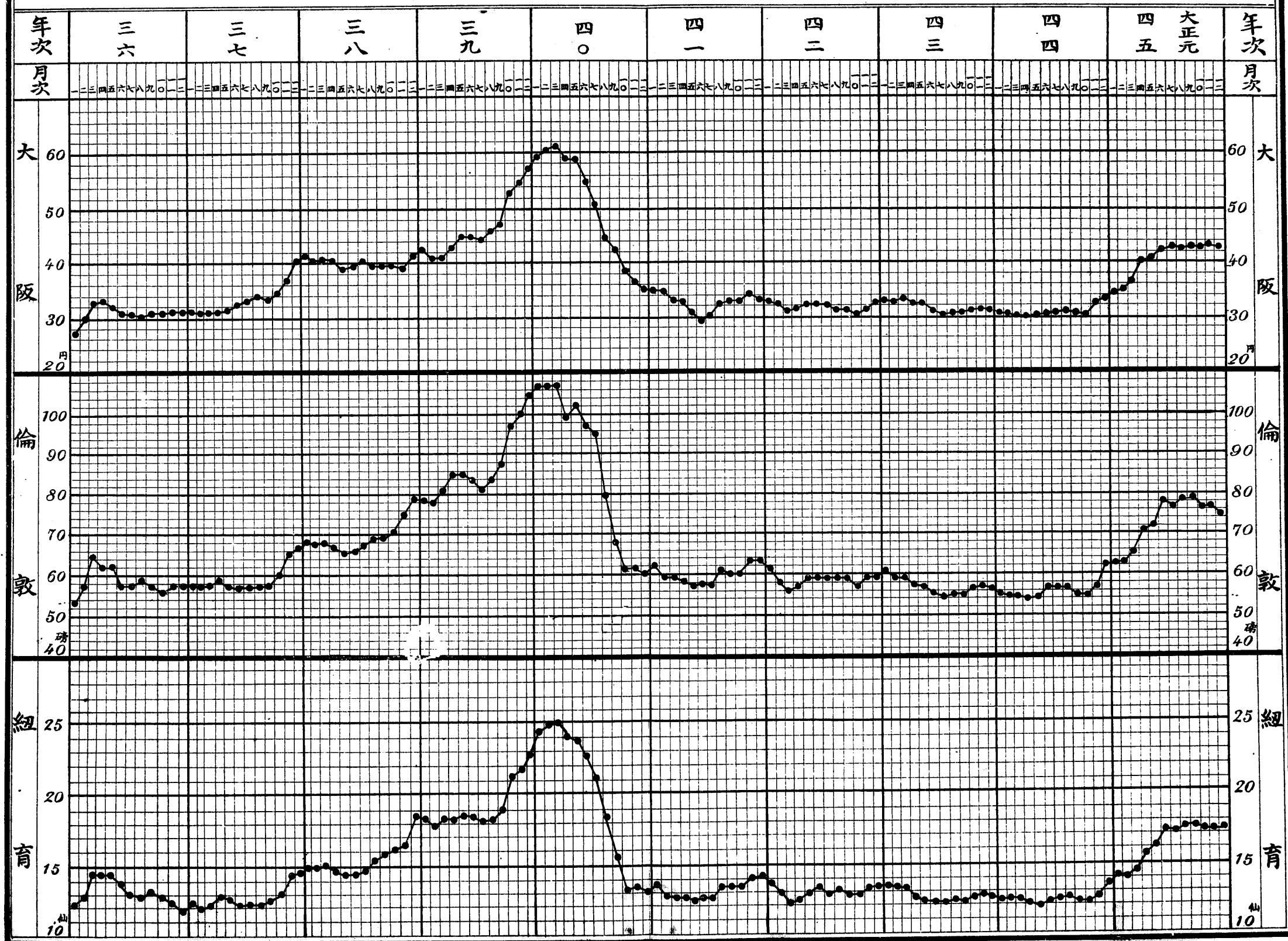
# 銀市價

大阪ハ一貫目  
倫敦、紐育ハ一先



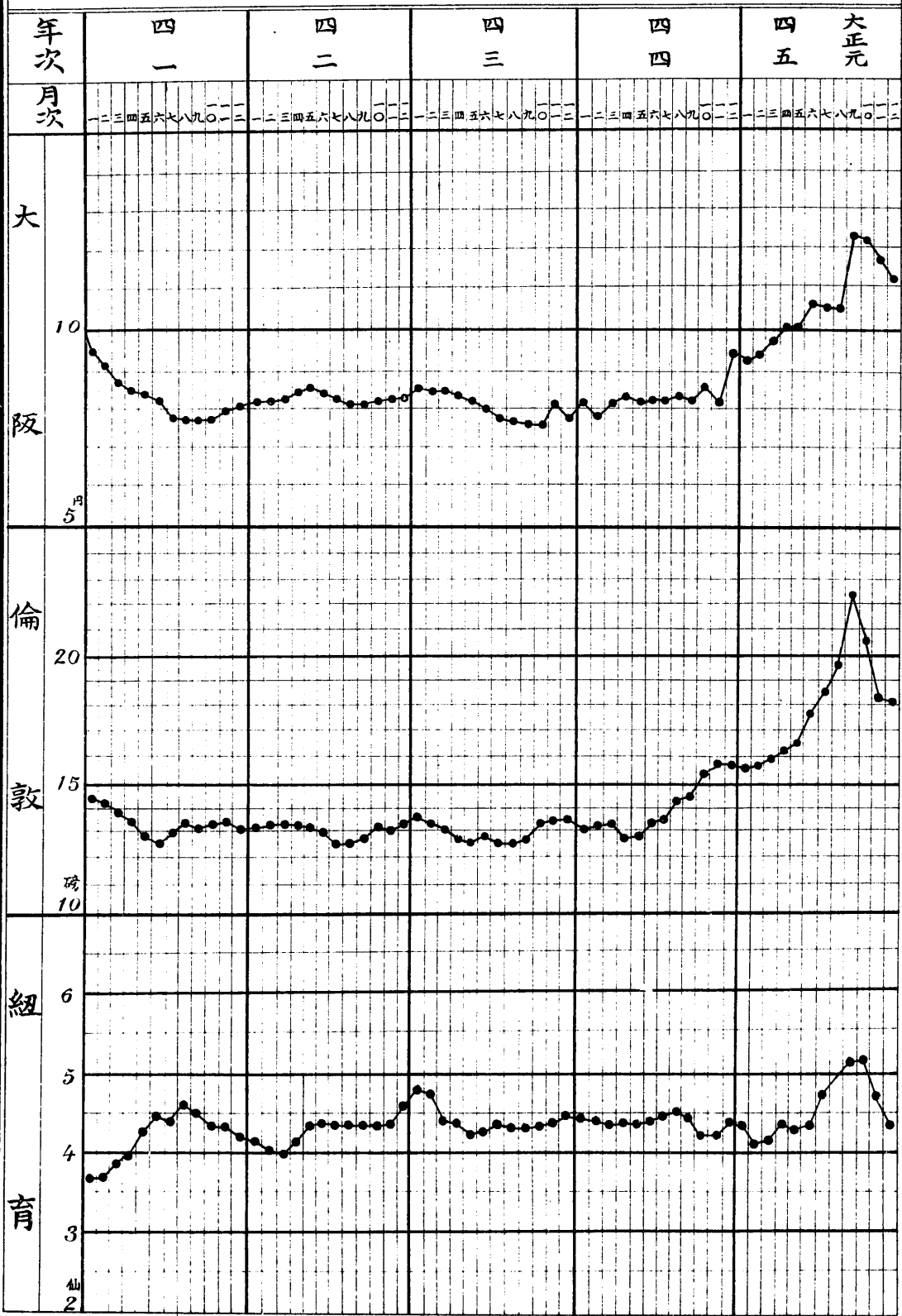
# 銅市價

大阪八百斤  
倫敦八一英噸  
紐約八一英斤



# 鉛市價

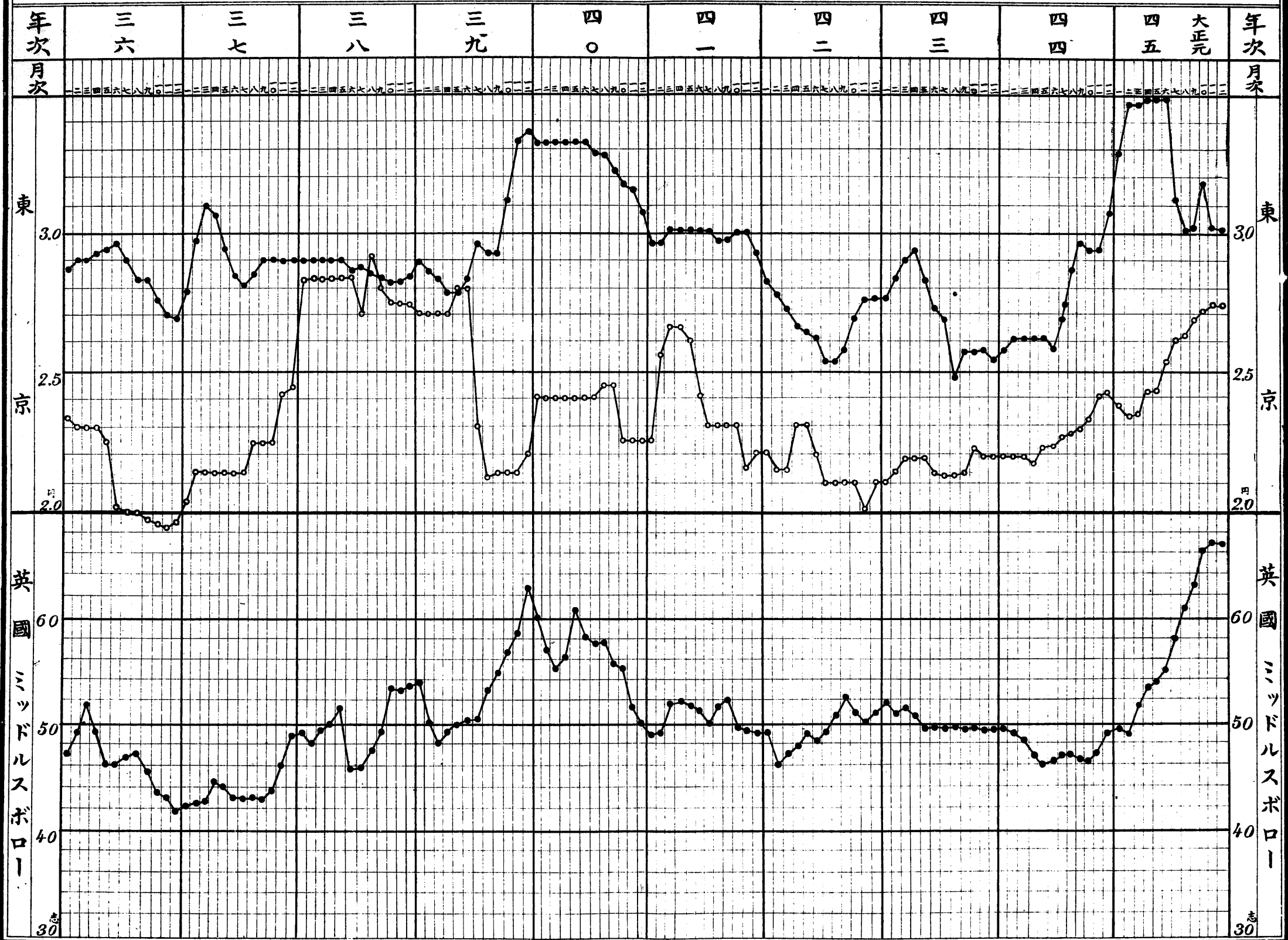
大阪八百斤  
倫敦一英噸  
紐育一英斤



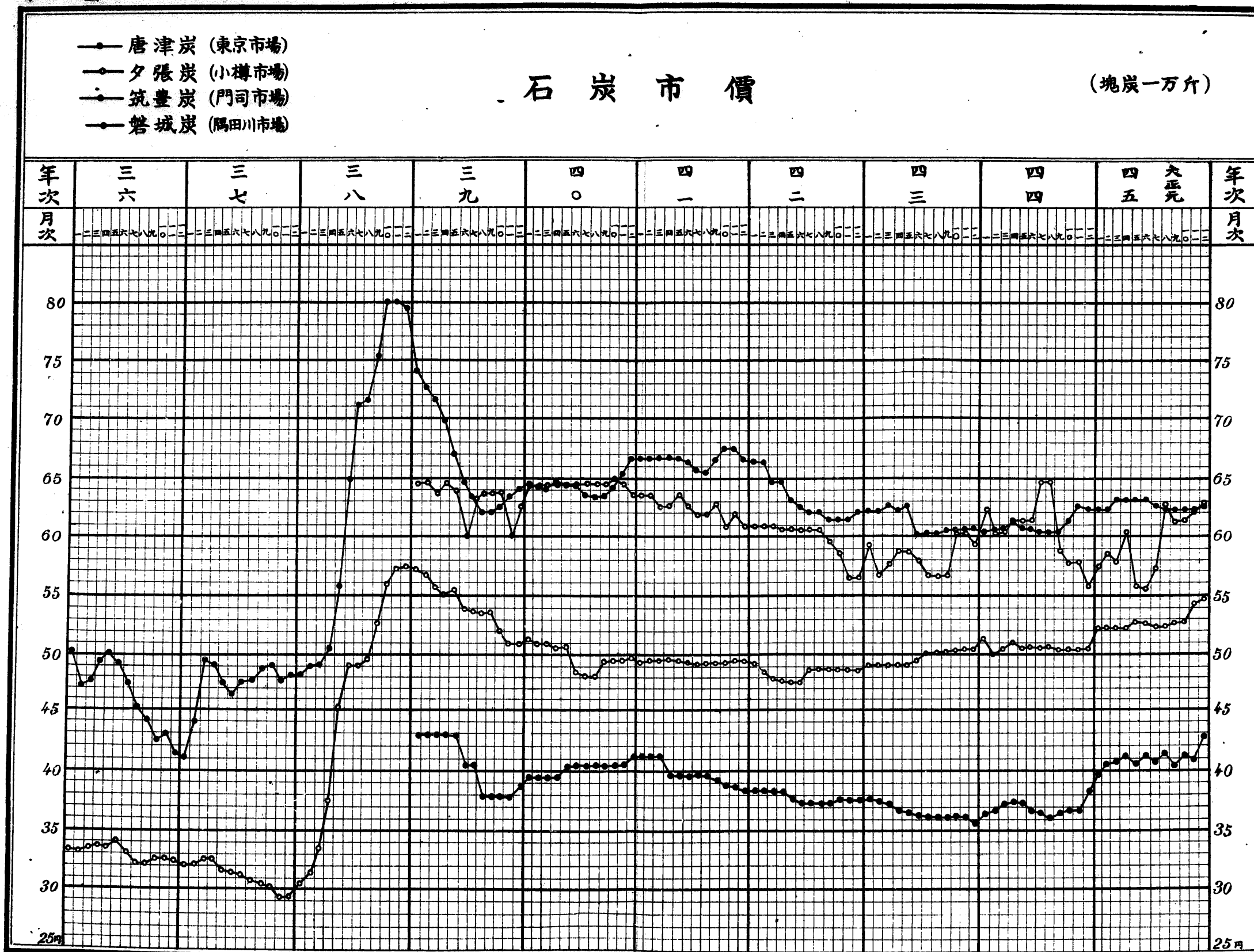


# 鐵 市 價

● 東京洋鉄(丸鉄四分)十貫目  
○ 同 銑鉄レッドカー百斤  
— 英國銑鉄クリグランド一英噸



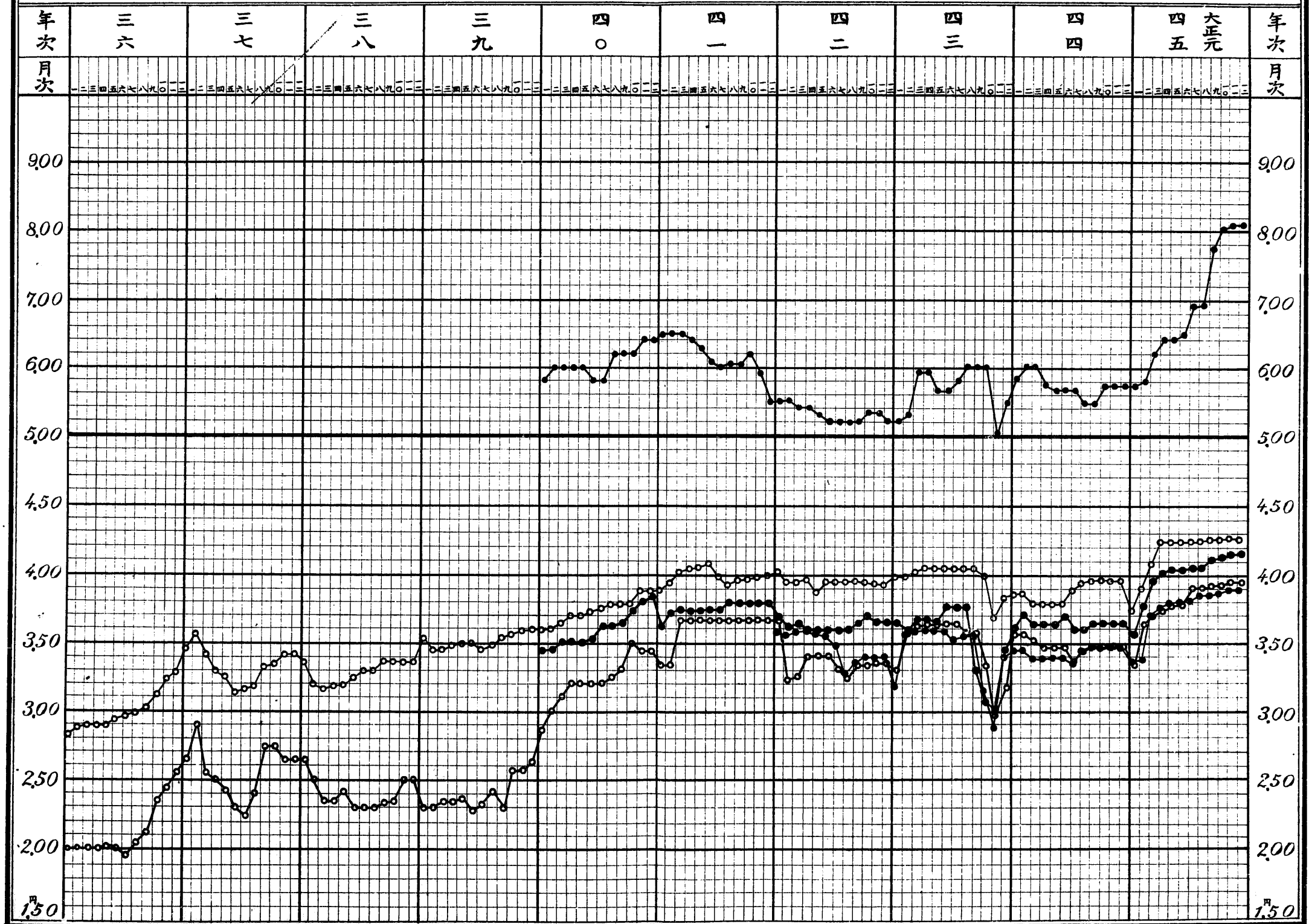




# 石油市價

東山原油 (浦瀬)  
チヤス タ一  
タ ン ク 油  
青 宝 玉  
黒 一 羽

原油 (一石)	長岡市場
チャスター (一箱)	東京市場
タンク油 (全)	全
青宝玉 (全)	全
黒一羽 (全)	全



## 第六章 鑛產物ノ市價

鑛產物市場ハ本年稀有ノ盛況ニシテ年内平均市價昨年ニ比シ安質母尼ノ僅カニ低落シタル外諸品一齊ニ騰貴セリ、就中銅ノ二割九分五厘最モ優リ鉛、鐵、原油カ何レモ二割餘、銀、錫亦一割餘ニ達セルハ共ニ注目スヘキ所ニシテ今前年トノ比較ヲ示セハ次表ノ如シ

鑛種別	市場及單位	明治四十五年		明治四十四年		平均	
		最高	最低	最高	最低	明治四十五年 大正元年	明治四十四年 割合(△ハ) (低)
銀	大阪一貫	十一月 一六〇・九四〇 四	一月 一四〇・六八〇 四	十一月 一三八・八三〇 四	三月 一二三・五〇〇 四	一五三・四三〇 四	一・三七
銅	大阪百斤	十一月 四三・五一〇	一月 三四・五五〇	十二月 三三・八九〇	五月 三〇・五六〇	四〇・六五〇	二・九五
鉛	大阪百斤	九月 一二・三一〇	一月 九・二三〇	十二月 九・五四〇	二月 七・九八〇	一〇・六三〇	二・六五
錫	大阪百斤	十二月 一三四・七一〇	三月 一二・七五〇	十二月 一二四・九六〇	二月 一〇七・一一〇	一二・三〇〇	一・〇六
安質母尼	大阪百斤	十一月 一八・六八〇	六月 一四・五〇〇	十一月 一七・四一〇	二月 一四・九八〇	一六・二一〇	〇・一〇
亞鉛	大阪百斤	二月 一九・六〇〇	九月 一七・七五〇	十一月 一九・六五〇	一月 一六・一五〇	一八・六七〇	〇・三八
鐵(丸鐵四分)	東京十貫	五月 三・五一〇 六月	十二月 三・〇一〇 十二月	十二月 三・〇八〇	一月 二・五八〇	三・三五〇	二・一五
石炭(九州二種炭)	門司一萬斤	十二月 五四・六九〇	二月 五二・一八〇 三月	一月 五一・一二〇 二月	二月 五〇・〇四〇	五二・七七〇	〇・四四
石油(黑一羽)	東京一箱	十二月 三八・六〇	一月 三三・三三〇	九月 三四・五〇	七月 三三・三三〇	三三・七三〇	〇・九四
原油(東山)	長岡一石	十二月 八一・〇〇	一月 五・七五〇	二月 六・〇〇〇	八月 五・五五〇	六・九〇〇	二・〇二



硫	黃	國	館	一	噸	自一月至十二月	三・五・五〇〇	自一月至十二月	三・五・五〇〇	十一月	三・五・五〇〇	一月	三・三・五〇〇	三・五・五〇〇	三・四・八三〇	〇・二・〇
---	---	---	---	---	---	---------	---------	---------	---------	-----	---------	----	---------	---------	---------	-------

銀

銀市場ハ一年ヲ通シテ活躍シタリ唯年内時々輕微ナル反動ノ起レルコトアリタリト雖トモ大體ニ於テ相場ノ歩調常ニ騰貴ニ向ヒ一月大阪市場百四十圓六十八錢一厘、倫敦市場二十五片八八七、紐育市場五十六仙二六〇ナリシモノ十二月ニハ大阪市場百六十圓七十三錢倫敦市場二十九片三二〇、紐育市場六十三仙三六五ニ達セリ今各月ノ平均價格及前年トノ對照ヲ示セハ次ノ如ク最高最低ノ値巾大阪二十圓二十五錢九厘、倫敦三片四三三、紐育七仙二一一ニ及ヒ一年ノ平均ハ前年ニ比シ各市場何レモ一割四分強ノ騰貴ニシテ千八百九十七年以來ノ高値ナリ

月次	大阪市場 (一貫)		倫敦市場 (一オンス)		紐育市場 (一オンス)	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一	一四〇・六八〇 <sup>円</sup>	一三六・三七〇 <sup>円</sup>	二五・八八七 <sup>片</sup>	二四・八六五 <sup>片</sup>	五六・二六〇 <sup>仙</sup>	五三・七九五 <sup>仙</sup>
二	一四四・八五〇	一三三・五五〇	二七・一九〇	二四・〇八一	五九・〇四三	五二・二二二
三	一五一・〇〇〇	一三三・五〇〇	二六・八七五	二四・三二四	五八・三七五	五二・七四五
四	一五二・五四〇	一三四・七四〇	二七・二八四	二四・五九五	五九・二〇七	五三・三二五
五	一五七・二四〇	一三四・六七〇	二八・〇三八	二四・五八三	六〇・八八〇	五三・三〇八
六	一五五・六九〇	一三四・六七〇	二八・二二五	二四・四八六	六一・二九〇	五三・〇四三

平 均	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
一五四・二五〇	一五五・一七〇	一五五・九九〇	一五七・七〇〇	一五八・四九〇	一六〇・九四〇	一六〇・七三〇
一三五・〇一〇	一三四・六七〇	一三四・三七〇	一三四・五一〇	一三三・七六〇	一三八・八三〇	一三六・五〇〇
二八・〇四二	二七・九一九	二八・八七五	二九・〇八八	二九・二九九	二九・〇一〇	二九・三二〇
二四・五九二	二四・二八六	二四・〇八二	二四・二〇九	二四・五九四	二五・六四九	二五・三四九
六〇・八三五	六〇・六五七	六一・六〇六	六三・〇七八	六三・四七〇	六二・七九〇	六三・三六五
五三・三〇四	五二・六三〇	五二・一七一	五二・四四〇	五三・三四〇	五五・七一九	五四・九〇五

銀價ノ如斯騰貴ハ主トシテ例年銀塊ノ最大購買者タル支那及印度ノ需要カ本年殊ニ増大シタルニ  
歸スヘク試ニ倫敦ヨリ兩地ヘノ輸出高ヲ舉クレハ次ノ如ク前年ニ比シ四割餘ノ増加ニシテ價格ノ  
騰貴ヲ斟酌シテ觀察スルモ尙ホ一般ヲ推シ得ヘシ

國 別	大 明 治 正 四 十 五 年	明 治 四 十 四 年	差 額
印 度	一一・九二四五〇〇 <small>磅</small>	八七〇・二五〇〇 <small>磅</small>	三・二二二・〇〇〇
支 那	一・七九六・〇〇〇	九九〇・三〇〇	八〇五七〇〇
計	一・三七一〇・五〇〇	九六九二・八〇〇	四・〇二七七〇〇

印度ニ於テハ本年ノ景氣一般ニ亘リ極メテ良好ニシテ貨幣ノ需要熾ナリシ爲メ代用金ノ輸入甚タ多カリシニ拘ハラズ銀需要ハ益々増加シ正貨準備ノ減縮意外ニ多クシテ其補填ヲ必要トセンカ爲メ多大ノ買入ヲ爲シタリ而シテ之ニ關聯シテ茲ニ注目スヘキハ印度政廳ノ銀購買方ニ付從來ノ慣行ヲ一變セルコトニシテ即チ本年鑄貨用銀ノ買入ハ大部分「サミュール」ノ手ヲ經テ私人取引ノ外觀ヲ以テ秘密ノ裡ニ巧妙ニ行ハレ買付銀ノ實際ニ船積セラル、迄ハ外部ヨリ何等此事アルヲ窺知シ得ザリシ程ニテ從ツテ市場ハ之レカ爲メ著シキ動搖ヲ受ケス銀投機ノ如キモ前年ノ如ク旺ナラサリキ

翻ツテ支那ニ付テ見ルニ革命後新政府ノ下ニ於テ早晚國內秩序ノ回復スヘキコトヲ豫想シ歐洲金融市場一般ニ清國ノ將來ヲ樂觀セントスル傾向アリテ對清爲替概シテ強固ナリシニ其間又例ノ大借款ニシテ都合ヨク成立センカ同國ノ商工業乃至財政的情況改善セラル、ニ至ルヘシトノ刺撃ハ自然同國ノ銀需要増加ノ豫期ヲ生ミ旁々市場ニ強硬材料ヲ供シタリ

尙ホ顧ルニ六七月ノ交相場ニ一頓挫ヲ來セルハ支那借款行惱ヲ氣構ヘテノ結果ナリシヲ外ニシテ晚秋初冬ニ亘リテ起レル巴爾幹紛爭ハ其當時財界ノ受クヘキ影響ニ懸念シテ一時幾分氣配ヲ崩シタル趣アリ又本年紐育市場ニ於テ佛國ノ鑄貨用買入アリシハ特種ノ事柄ナルモ兩者共ニ相場ニ左シタル變化ヲ與ヘサリシカ如シ此外各月ニ亘ツテハ「モンズー」經過ノ良否、印度及支那ニ於ケル農作ノ豐凶、銀行家買聯合、其他投機者流ノ動靜等ノ硬軟諸材料ハ例年ノ如ク時處ニ從ツテ隱顯シ相場ハ此等ノ勢ニ乘シテ又動ク所アリキ

# 銅

本年ノ如ク銅界ノ盛況ヲ極メタルコトハ千九百七年以來見サリシ所ニシテ平均市價大阪市場ハ百斤四十圓六十五錢倫敦市場ハ一英屯七十二磅九四二ニ當リ之ヲ前年ニ比スレハ前者二割九分五厘後者三割三厘ヲ騰貴セリ蓋シ春來造船電氣其他諸工業界ノ殷賑ニ伴ヒ一般ニ銅消費額非常ニ増加セルニ拘ハラス產銅ノ之ニ添ハサル傾銅山主ノ市價維持策ニ依ツテ潤色セラル、所アリタリトハ言ヘアリテ旁々世界ノ滯銅著シク減退セルカ爲メ終ニ此活躍ヲ見ルニ至レルモノニシテ其先驅ハ既ニ昨年末ノ高値ニ現ハレ一月以來累月騰貴シテ盛夏其極點ニ達シ爾後ハ商況稍々軟弱ナリキ又内地銅モ線板眞鍮等ノ製造工業進歩セル結果其消費ヲ増シ相場ノ如キモ殆ント倫敦ト値開ヲ見サルノミナラス支那ノ需要ノ爲メ反ツテ時々其上鞘ニ呼ハレ所謂東洋相場ヲ現出セルコトアリ尙ホ年内市價最低ハ一月廿九日最高ハ六月二十日ニシテ前者六十磅十七志六片後者八十磅一志三片ヲ唱ヒタリ今各月平均市價及前年トノ對照ヲ示セハ次ノ如シ

月次	大阪市場(百斤)		倫敦市場(一英噸)		紐育市場(一封度)	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一 月	三四・五五〇 <sup>円</sup>	三一・四〇〇 <sup>円</sup>	六二・七六〇 <sup>磅</sup>	五五・六〇四 <sup>磅</sup>	一四・〇九四 <sup>仙</sup>	一二・二九五 <sup>仙</sup>
二 月	三四・五七〇	三一・一二〇	六二・八九三	五四・九七〇	一四・〇八四	一二・二五六
三 月	三六・三九〇	三〇・八五〇	六五・八八四	五四・七〇四	一四・六九八	一二・一三九

平 均	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
四〇・〇五〇	四一・五二〇	四二・四三〇	四二・九五〇	四二・五一〇	四三・三二〇	四三・二九〇	四三・五一〇	四二・七六〇	四〇・六五〇
三〇・六五〇	三〇・五六〇	三一・〇二〇	三一・三三〇	三一・二一〇	三一・二〇〇	三一・〇八〇	三二・五二〇	三三・八九〇	三一・三九〇
七〇・二九四	七二・三三二	七八・二五九	七六・六三六	七八・六七〇	七八・七六二	七六・三〇九	七六・〇九〇	七五・五一六	七二・九四二
五四・〇三五	五四・三一三	五六・三六八	五六・六七〇	五六・二六七	五五・二五三	五五・一七六	五七・二五三	六二・〇六八	五五・九七三
一五・七四一	一六・〇三一	一七・二三四	一七・一九〇	一七・四九八	一七・五〇八	一七・三一四	一七・三二六	一七・三七六	一六・三四一
一二・〇一九	一一・九八九	一二・三八五	一二・四六三	一二・四〇五	一二・二〇一	一二・一八九	一二・六一六	一三・五五二	一二・三七六

更ニ各月ノ概況ヲ述ヘンニ倫敦市場ハ前年ノ納相場ヨリ十志高ノ六十二磅十七志六片ニ開ケ漸次  
 強硬ノ氣勢アリシモ中旬頃ヨリ勞働問題或ハ佛國政界混亂等傳ヘラレテ氣配挫ケ一月初日終ニ年  
 内最低市價ヲ呼フニ至レリ二月ニ入リテモ猶市況不味ヲ脱セサリシカ月半ハ以後ハ供給銅ノ消盡  
 滯銅ノ減少等ノ爲メ市價復活シ六十四磅一志三片ニシテ月ヲ閉チタリ大阪市場モ大體倫敦ノ商況  
 ニ追隨シタルモ亦別ニ新年早々南清方面ヨリ買注文アリテ氣勢ヲ添ヘタルノミナラス昨秋來ノ好  
 調ニ連レテ大手筋ハ常ニ高値ニ商ヒ又春來既ニ四月物ヲ賣リ盡シ五六月物迄拂底ニ見ヘ小口相場

モ上走リテ商況極メテ活氣アリキ

三月倫敦市場ハ石炭工夫同盟罷業ノ影響ヲ受ケテ沈滞セルニ搗テ、加ヘテ伊土戰爭ノ繼續及「モロツコ」問題ニ關スル佛西間ノ危機ニ脅カサレ更ニ又歐米兩大陸ニ亘ル石炭工夫同盟罷業將ニ起ラントスト喧傳セラル、等場面總シテ幽暗ノ趣キアリシニ拘ハラス市價ハ歐米在銅減少ノ爲メ昂騰セリ翻ツテ大阪市場ヲ見ルニ大手筋ハ既八九月頃迄ノ產銅ヲ約定セルコトトテ在荷拂底ノ處更ニ支那銅元局トノ間ニ電氣銅千二百噸ノ商談纏リタルノミナラス猶注文アルヘキヲ氣構ヘテ倫敦ニ比シ一二圓方上離レタリ

四月ハ石炭工夫同盟罷業ノ終熄ト共ニ幾分強含ミナカラ先ツ以テ相場見送ノ商狀ニテ過キ五月ニハ米國ノ產銅増加ノ統計ヲ翳シテ相場稍々叩カレタルモ中旬世界ノ滯銅僅カニ一箇月ノ消費ヲ充スノミト知レ爲メニ消費者モ投機者モ共ニ買進ミ月末市價引返シテ七十五磅十志ニ終レリ

六月ニ入リテハ五月中ニ於ケル歐米ノ滯銅急減セル事實現ハレ供給又漸次減少シツ、アルニ需要ハ毫モ退勢ナキノミナラス反ツテ注文續出取引數量激增ノ狀況ニテ然カモ其間投機者流ノ勢ニ乘シテ買煽ルアリ爲メニ市場ハ活氣横溢殆ント興奮セルカ如ク相場ハ切リニ騰貴シテ終ニ廿日八十磅ヲ抜キ年内最高値ニ達セリ此時ニ當リ米國ニ隱レタル大滯銅アリトノ荒唐ノ説突如トシテ流布セラレ茲ニ急遽投ケ退キ賣リ急キ相繼キ爲メニ一噸ニ付二磅乃至三磅方ノ激落ヲ見ルニ至リタレトモ斯ノ如キハ要スルニ人心狂熱相場奔騰ニ際セル一時的惑亂ニシテ事情ニ通スルモノハ輕々シク動カサレス應カテ安値ハ更ニ目利キニ買ハレ暫クニシテ人心鎮マルト共ニ市況モ堅實トナリ月



末七十七磅十一志三片ヲ唱ヘタリ大阪市場モ之ニ連レテ活躍シ市價ハ殆ント倫敦トノ開キヲ見サ  
リキ

七月ノ市場ハ初メ不味ニシテ且ツ動搖極メテ多ク時々七十一二磅ニ蹴込マレタル事サハアリタル  
モ後チ米國統計ノ發表ヲ機トシテ引返シ八月ハ暑中休暇ノ爲メ大口取引一般ニ拂々シカラス殊ニ  
七月中ノ滯銅増加ヲ報セラレ旁々商狀鈍カリシカ次テ伊土媾和ノ有望、米國ノ穀物豐穰、歐洲ノ銅需  
要増進、佛國政府ノ大注文或ハ硫酸銅需要期ノ普通ヨリ早ク且ツ永カリシコト等ハ相錯綜シテ市價  
ヲ上騰セシメ一時ハ殆ント八十磅ニ及ヘルコトアリテ末日相場七十九磅二志六片ヲ唱ヘ九月ハ格  
別ノコトナク相場手堅クシテ過キタリ大阪市場モ亦之ニ共鳴シテ七月以降至ツテ強硬ニ經過シ現  
物ハ小口ノ外纏リタル在荷ナク又春來約定品ノ荷渡ニ多忙ヲ極メ、ノミナラス期近物ハ殆ント先約  
濟ニテ明年三四月頃ノ物ナラテハ新規商談ヲ運ヒ難キ有様ナリキ

十月巴爾幹戰爭勃發ノ爲メ財界一般ニ沈衰セル餘波ヲ受ケテ月半ハニ當リ銅價終ニ七十二磅ニ崩  
落シ次テ軟派ノ買戻ニ續キテ歐洲ニ於ケル消費ノ増進滯銅ノ減退ヲ鳴物トシテ四五磅方引返シタ  
ルモ月末金利高、米國產銅増加等ニ影響セラレテ相場ハ又々引緩ミタリ大阪市場ハ借款ヲ氣構ヘテ  
カ又々對支商談ヲ聞クニ至リ月初市場一寸活躍シ兎角スル中ニ近東政治上ノ禍機ノ爲メ幾分不振  
ノ狀ヲ呈シタリシモ何分在荷少ナク且ツ明年三四月物ノ如キ長期賣約サハ餘程締結サレタルノミ  
ナラス反動待チノ筋モ見受ケラレ旁々相場ハ割合ニ手堅ク下旬幾分ノ引返シヲ見タルモ大體前月  
ニ比シ不勢ヲ免レサリキ

十一月ハ一般ニ好氣配ヲ以テ明ケ期近賣物ノ買戻或ハ消費者ノ買進ミ等ノ爲メ相場上向キ後半ニ及ヒテハ取引稍々緩慢ナリシモ主ナル製銅業者ハ堅ク其呼値ヲ持シテ下ラス從ツテ相場ハ保合ノ姿ナリシカ氣配ハ猶軟弱ヲ脱セス十二月ハ市況更ニ不振賣物續出シテ七十三磅十志ニ落チ込ミタル事モアリシカ月末稍々持チ直シ終ニ七十七磅十二志六片ニ打止メテ越年セリ

## 鉛

本年ニ於ケル諸鑛物中市況最モ活躍セルハ銅ニシテ之ニ次クモノハ鉛ナリキ即チ大阪市場ハ前年末ノ好勢ヲ承ケテ開ケ爾來月ヲ重ヌルニ從ヒテ市價愈々上騰シ九月ニハ年内最高値十四圓十錢ヲ示スニ至レル如キ定ニ稀有ノ盛況ナリキ各月平均價格最高最低ノ開キ三圓餘ニ及ヒ一年平均價格ヲ前年ニ比スレハ二割六分五厘ノ騰貴ニシテ昨年ノ一昨年ニ對スル騰貴歩合二分七厘ニ對照スレハ殆ント十倍ナルヲ見ル蓋シ鉛ノ主產地タル濠洲ニ於テ昨年ノ產出意ノ如クナラサリシト及本年五月以來歐洲ニ於テ鉛販賣ノ「シンデケート」組織セラレテ市價ノ鈞上策講セラレタルトハ共ニ重要ナル騰貴素因タルヘシト雖モ又瓦斯電氣事業ノ勃興ヲ始メトシテ鉛ニ對スル一般工業的需要ノ増加セル情況察スルニ餘リアリ

今各月平均市價並ニ前年トノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

月次	大阪市場(百斤)		倫敦市場(二英噸)		紐育市場(二封度)	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一	九・二三〇 円	八・〇三〇 円	一五・六一九 磅	一三・〇〇九 磅	四・四三五 仙	四・四八三 仙

平 均	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
一〇・六三〇	九・五〇〇	九・八五〇	一〇・〇五〇	一〇・〇五〇	一〇・六〇〇	一〇・五三〇	一〇・五二〇	一二・三一〇	一二・一五〇	一一・六九〇	一一・〇八〇
八・四〇〇	七・九八〇	八・〇一〇	八・二九〇	八・一三〇	八・二〇〇	八・二〇〇	八・三三〇	八・二四〇	八・六四〇	八・一六〇	九・五四〇
一七・九二九	一五・七三八	一五・九九七	一六・三三一	一六・五〇九	一七・五八八	一八・五四四	一九・六七九	二二・二九二	二〇・六三〇	一八・一九三	一八・〇六九
一三・九七〇	一三・〇四三	一三・一二二	一二・八八九	一二・九八四	一三・二六〇	一三・五三〇	一四・二六〇	一四・七四四	一五・三三二	一五・八二一	一五・六四八
四・四七一	四・〇二六	四・〇七三	四・二〇〇	四・一九四	四・三九二	四・七二〇	四・五六九	五・〇四八	五・〇七一	四・六一五	四・三〇三
四・四二〇	四・四〇〇	四・三九四	四・四一二	四・三七三	四・四三五	四・四九九	四・五〇〇	四・四八五	四・二六五	四・二九八	四・四五〇

翻テ倫敦市場ヲ一瞥スルニ平均價格明治四十四年ニ比シ三磅十九志一片(二割八分三厘)ヲ騰貴シタルハ豫期以上ノ非常ナル好況ナルト共ニ更ニ注目スヘキハ年内最高値二十三磅十五志(九月中)ニ達セルコトニシテ斯克ノ如キハ實ニ露土戰爭當時以來明治四十年ヲ除キテハ未タ曾テ見サリシ處ナリ、而シテ年内相場ノ變動モ亦他ノ鑛物ニ比シテ遙カニ多ク其值開キ八磅五志ヲ算シ前年平均價格

ノ五割七分餘ニ當レリ、一月十五磅十五志ヲ以テ市場開ケテ以來五月迄商況穩健ニシテ市價漸騰ノ途ヲ辿リタリシカ六月ハ投機者ノ買煽リノ爲メ又七月ハ市場在荷薄ノ爲メ共ニ商狀活潑十八磅五志ニ騰貴シタリ此勢威ハ八月ニ入リテ更ニ加ハリ九月ニハ愈々騰貴シテ終ニ同九日年内ハ表ハシ從ツテ之カ爲メ市場在荷増ノ傾向ヲ馴致シ茲ニ於テ漸落ノ步調ヲ取ルニ至レリ而シテ十月ハ全ク前月ノ狂相場ヲ去リ反動安二十一磅五志ニ始マリタルカ爾來引續キ賣崩サレ相場下押勝ニテ一向目醒マシキ引返シモナク結局十八、九磅臺ヲ小往來シツ、年ヲ終レリ

## 鐵

内國洋鐵相場ハ前年末ノ在荷減少ニ依ル活況ヲ受ケ年初手堅ク開ケテ以來日ニ益々好調ヲ呈シ二月ニ入リテハ品拂底ノ折柄本國各工場カ依然供給不足ノ爲メ入電毎ニ高値ヲ報セルヨリ例年ノ閑散季ニ似ス騰貴一方ニテ場面頗ル活躍シ同月末ヨリ三月上、中旬ニ亘リ市場ニハ多少ノ買持アリテ見送勝ナルト地方人氣亦一般ニ買控ノ爲メ相場保合ナカラ氣配幾分沈靜ヲ免レサリキ、三月末獨逸汽船ノ運賃割引問題ノ紛糾消散ト共ニ商況立直リ氣味ヲ以テ四月ニ入リ荷捌順調ニシテ相場ハ引締ノ風情ノ處英國石炭礦夫同盟罷業ニヨリ入荷薄ヲ氣構ヘテ更ニ上昇シタリ五月六月ハ農繁需要薄ノ期節トテ取引稍々不活潑、在荷増ノ傾ノ爲メ景氣軟弱ニシテ相場ハ本國高ニ拘ハラス品ニ依リ安値ヲ見タルモ先ツ保合ニテ送り七月多少回復ノ趣キナキニアラサリシカ概シテ氣勢更マラサリキ、八月以降本國ハ益々高値ヲ報シツ、アルニ拘ハラス安値ノ約定品入津、在荷潤澤等ノ爲メ氣配崩

レテ市價低落シ九月モ涉々シカラス十月中下旬ニ至リテハ在荷猶ホ稍々潤澤ニテ市價ハ本國ニ比シ幾分下値ヲ免レサリシカ建築材料ノ需要割高ニ伴ヒ一般鐵材ノ取引凡テ順調ノ爲メ約十錢方ノ引返シヲ見タリ十一月以後ハ在荷増シ取引薄等ノ事情アリシノミナラス金融引締リテ餘リ圓滑ナラサリシ結果安値賣退ヲ爲スモノサヘ生シ一般間屋筋モ不引合ノ安値ヲ呼フニ至リテ市況不振ノ中ニ越年セリ

銑鐵相場ハ前年末ニ比シ當初稍々下鞆ナリシモ爾後小幅ナカラ累月騰貴ヲ重ネ一度モ挫折ノ月ヲ見サルノ好況ナリキ今各月市價ヲ示セハ左ノ如ク平均價格前年ニ比シ洋鐵ハ二割強、銑鐵ハ一割二分強、英國銑鐵ハ二割強ノ騰貴ナリ

月次	東京洋鐵(丸鐵四分)(十貫)		東京銑鐵(レツドカー)(百斤)		英國ミッドルスボロー銑鐵(一噸)	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一 月	三・二九〇	二・五八〇	二・三九〇	二・二九〇	四九・〇七	四九・〇九
二 月	三・四七〇	二・六一〇	二・三四〇	二・二九〇	四九・〇一	四九・〇〇
三 月	三・四七〇	二・六一〇	二・三四〇	二・二九〇	五一・〇八	四八・〇〇
四 月	三・五一〇	二・六一〇	二・四一〇	二・二七〇	五三・〇五	四六・〇九
五 月	三・五一〇	二・六一〇	二・四四〇	二・二〇〇	五三・〇七	四六・〇〇
六 月	三・五一〇	二・五八〇	二・五四〇	二・二〇八	五四・〇八	四六・〇二
七 月	三・一二〇	二・六九〇	二・六〇〇	二・二六〇	五八・一〇	四六・〇九

平 均	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
三・三五〇	三・〇一〇	三・〇八〇	三・一九〇	三・〇九〇	三・〇一〇
二・七六〇	二・八六〇	二・九七〇	二・九四〇	二・九四〇	三・〇八〇
二・五五〇	二・六三〇	二・六九〇	二・七一〇	二・七四〇	二・七四〇
二・二六〇	二・二八〇	二・二九〇	二・三二〇	二・四〇〇	二・四一〇
五七・一一	六一・〇〇	六三・〇八	六六・〇四	六七・〇二	六六・一三
四七・〇五	四七・〇〇	四六・〇七	四六・〇三	四七・〇二	四九・〇四

英國鋼鐵市場ハ一般工業界ノ殷賑ニ連レ一年ヲ通シテ活氣漲リタリ造船業者ヲ始メ各製造業者ノ鋼及鐵ニ對スル需要ハ極メテ増加シ在荷ノ如キモ非常ノ減退ニテ例ヘハ「ミツドルスボロー」ニ於ケル「カンバーランド」鐵ノ在荷明治四十四年ノ終ニ五十三萬八千二百五十九噸ナリシモノカ大正元年末ニハ二十三萬八千九百三噸(殆ント三十萬噸ノ減少)トナリタル有様ナリ旁々相場ハ月々騰貴ニ騰貴ヲ重ネ年初一噸ニ付船板七磅二志六片、瀝鏢板七磅十七志六片、アルグル板六磅十五志ノ呼値ヲ以テ開ケタルカ二月ニ入り五志方騰貴シタルヲ初メトシテ四、五、八、十一各月ニ於テ更ニ騰貴シ終ニ年末ニハ船板八磅二志六片、瀝鏢板九磅二志六片、アングル板八磅ノ時價ヲ見ルニ至レリ今最近五箇年ノ一噸當リ最高最低ノ市價ヲ對照スレハ次ノ如シ

年 次	船 板		瀝 鏢 板		ア ン グ ル 板	
	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低
大 明 治 正 四 十 五 年	八・七六 磅志片	七・二六 磅志片	九・二六 磅志片	七・二七六 磅志片	八・〇〇 磅志片	六・一五〇 磅志片



明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	同四十二年	同四十一年
七・二・六	六・七・六	六・七・六	六・七・六	六・二・六
六・一七・六	六・二・六	五・一七・六	六・二・六	六・二・六
七・一七・六	七・二・六	七・二・六	七・二・六	七・七・六
七・二・六	六・一七・六	六・一七・六	六・一七・六	六・一七・六
六・一五・〇	六・一〇・〇	六・〇・〇	六・〇・〇	六・五・〇
六・一〇・〇	五・一五・〇	五・一〇・〇	五・一〇・〇	五・一五・〇

銑鐵相場モ亦概ネ此狀況ヲ辿ツテ非常ニ騰貴シ平均價格ヲ前年ニ比スレハ實ニ十志ノ差ナリ  
 因ニ本年三四月ノ交中外ノ耳目ヲ聳テタル英國炭礦夫同盟罷業ハ直ニ同國鋼鐵界ニ痛切ナル影響  
 ヲ及ホシ各種製鐵業者ハ石炭供給杜絶ノ爲メ殆ント二箇月間其事業ヲ休止スルノ厄ニ遇ヒタルモ  
 爾餘ノ十箇月間ニ於ケル市價ノ活躍ヨリシテ非常ナル好景氣ニ年ヲ送りタリ  
 米國市場ハ前年萎靡セル鋼鐵諸工業ノ復活ト共ニ鐵及鋼ニ對スル需要ノ急進セルコト殆ント空前  
 ニシテ明治三十九、四十年ノ大景氣當時擴張セル生産能力ヲサヘ超過シツ、アリタリト言ハル、年初  
 市場靜穩ニ開ケタルモ忽チ活動ノ期ニ入り漸次氣勢ヲ加ヘテ相場月々ニ昂進シ年末ニ至リテ正ニ  
 最高潮ニ達セリ、各製鐵業者ハ全力ヲ舉ケテ需要ノ充足ニ任シ在荷モ殆ント使用シ盡サレタル觀ア  
 リテ唯年内粗鐵ノ在荷殊ニ「レーク」ノ稍増加ヲ見シコトナキニアラスト雖トモ夫ハ需要ノ減退ニ依  
 レルニアラストシテ運輸ノ都合意ノ如クナラサリシニ依ルトセラレ又例ノ米國鋼鐵合同ハ當年内獨  
 立工場ノ事業トシテ充分ニ作業シタルカ其受ケタル注文ノ中鋼鐵「レール」、建築用鋼鐵及電鍍板ノ需  
 要最モ多カリシト云フ

# 石油

原油 羽後或ハ北海道ニ於テ新油田ノ開拓大ニ努力セラレツ、モ尙最近兩三年來原油ノ産額漸次意ノ如クナラサルニ本年偶々試ミラレタル「ロータリー」式鑿井ノ成績良好ナルニ刺戟セラレ舊油田ノ衰兆ヲ回ラシ得ヘシトシテ市場一般ニ活氣ヲ帶ヒ且ツ製油各種ノ市場殷賑ヲ極メタルニ連レ原油ノ市價茲ニ著シク好況ヲ迎ヒ平均價格前年ニ比シ東山二割強新津三割九分弱ノ騰貴ヲ爲セリ而シテ各月ノ相場ハ例年ニ倣ハス需要期不需要期ヲ通シテ年首ヨリ騰貴一方ニテ年ヲ終リ就中新津カ東山ニ比シ割高ナリシハ燃料油機械油ノ需要旺ナリシニ職由ス

今東山原油及新津原油一石ニ對スル各月ノ建値ヲ舉クレハ次ノ如ク最低(一月)最高(十二月)ノ値幅東山二圓三十五錢新津二圓三十錢ニシテ又一年平均價格ヲ前年ニ比スレハ東山ハ二割二厘ヲ新津ハ三割九分ヲ何レモ騰貴シタリ今兩油田原油一石建月別市價ヲ示セハ次ノ如シ

月次	東山油田		新津油田	
	明治四十五年	明治四十四年	明治四十五年	明治四十四年
一月	五七五〇 <small>円</small>	五八五〇 <small>円</small>	三二五〇 <small>円</small>	二九五〇 <small>円</small>
二月	五八〇〇	六〇〇〇	三二〇〇	三〇五〇
三月	六二〇〇	六〇〇〇	三四五〇	三一〇〇
四月	六四〇〇	五七五〇	三六五〇	三一〇〇

五	六	七	八	九	十	十	平
月	月	月	月	月	月	月	均
六・四〇〇	六・五〇〇	六・九〇〇	六・九〇〇	七・七五〇	八・〇〇〇	八・二〇〇	六・九〇〇
五・六五〇	五・六五〇	五・六五〇	五・五五〇	五・五五〇	五・七五〇	五・七五〇	五・七四〇
三・八〇〇	三・九五〇	四・二五〇	四・六五〇	五・一〇〇	五・二五〇	五・四五〇	四・二八〇
三・一〇〇	三・一〇〇	三・一〇〇	二・九五〇	三・〇五〇	三・一五〇	三・一五〇	三・〇八〇

燈油 燈油相場ハ前年沈靜セル市況ノ後ヲ受ケ年初稍々下放レテ開ケタレトモ「ス」社ノ獎勵販賣締切リ及「ライ」社並ニ内油兩社ノ割引撤廢ニ續イテ二月ニ入り各社步調ヲ一ニシテ短時日間ニ數回ノ値上ケヲ斷行スルヤ俄然市場ノ活氣湧立チ來レリ爾來四圍ノ狀況凡テ强硬材料ナラサルナキノ觀ヲ呈シ四五月以降所謂需要薄ノ期節ニ入ルモ將タ此期節ヲ脱スルモ相場ハ更ニ關セサルモノ、如ク連月益々昂騰シテ殆ント棒立チ相場ヲ以テ年ヲ閲シタリ從ツテ月ニ依リテ起ルヲ常トスル騰落ノ迂餘曲節ニ付キ述フヘキ特異ノモノナク結局平均價格昨年ニ比シ概ネ七八歩乃至一割方ノ騰貴ヲ見ルニ至レリ内地市場ノ此盛況ハ蓋シ外油ノ本國高ニ共鳴シタル結果ニシテ外國ニ於ケル燈油

價格騰貴ハ又主トシテ原油價格ノ上昇ニ歸シ運賃昂騰ノ爲メ助長セラレタリ因ミニ本年ノ油界カ  
東西均シク活躍セル理由ヲ求メントスレハ一ニシテ足ラスト雖モ英國石炭礦夫同盟罷業ノ影響、艦  
船、鐵道ノ石油使用増加ノ傾向、諸工場用其他各種發動機用ノ需要増加等ヲ重要ナル近因トシテ數フ  
ルヲ得ンカ

燈油及輕油市價 (一國建)

月次	チヤスタ		タシク		青寶玉		黒一羽		赤全勝利	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一	三・七一〇	三・八六〇	三・五八〇	三・六一〇	三・三三〇	三・五六〇	三・三三〇	三・四三〇	二・三二〇	二・七二〇
二	三・八八〇	三・八六〇	三・七八〇	三・七一〇	三・六五〇	三・五六〇	三・五〇〇	三・四三〇	二・四七〇	二・七七〇
三	四・一五〇	三・七六〇	三・九八〇	三・六五〇	三・七〇〇	三・五一〇	三・六九〇	三・三八〇	二・五二〇	二・七七〇
四	四・二一〇	三・七六〇	四・〇二〇	三・六五〇	三・七四〇	三・四八〇	三・七四〇	三・三八〇	二・六二〇	二・七五〇
五	四・二一〇	三・七六〇	四・〇五〇	三・六五〇	三・七七〇	三・四八〇	三・七六〇	三・三八〇	二・六五〇	二・七五〇
六	四・二一〇	三・七六〇	四・〇五〇	三・七〇〇	三・七七〇	三・四八〇	三・七七〇	三・三八〇	二・七五〇	二・七〇〇
七	四・二一〇	三・八六〇	四・〇八〇	三・六〇〇	三・八三〇	三・三六〇	三・七九〇	三・三三〇	二・八五〇	二・六三〇
八	四・二一〇	三・九一〇	四・〇八〇	三・六〇〇	三・八三〇	三・四三〇	三・八二〇	三・四〇〇	三・〇五〇	二・六三〇
九	四・二四〇	三・九四〇	四・一一〇	三・六五〇	三・八三〇	三・四八〇	三・八二〇	三・四五〇	三・〇五〇	二・六三〇
十	四・二四〇	三・九四〇	四・一三〇	三・六五〇	三・八三〇	三・四八〇	三・八三〇	三・四五〇	三・一〇〇	二・六三〇

平 均	十 一 月	十 二 月
四・一五〇	四・二四〇	四・二四〇
三・八六〇	三・九四〇	三・九四〇
四・〇二〇	四・一六〇	四・一六〇
三・六五〇	三・六五〇	三・六五〇
三・七五〇	三・八六〇	三・八六〇
三・四三〇	三・四八〇	三・四八〇
三・七三〇	三・八六〇	三・八六〇
三・四一〇	三・四五〇	三・四五〇
二・八一〇	三・一六〇	三・一六〇
二・六九〇	二・六三〇	二・六三〇

備考 表中赤全勝利欄内四十四年ハ黒全勝利ノ市價ヲ示ス

## 硫 黃

本邦硫黃市場ハ米國輸入税問題ノ解決ト共ニ景氣恢復ニ向ヒシ昨年末ヲ承ケテ商況一體ニ活潑ナリキ、市價ハ一年ヲ通シテ三十五圓五十錢ヲ持續シツ、左シタル變動ヲ見スシテ結局昨年ニ比シ二分ヲ騰貴セリ蓋シ米國太平洋沿岸ニアリテハ殺蟲劑原料トシテ硫黃ヲ多量ニ使用シ然カモ此地方ニ供給スル同國品ハ鐵道運賃ヲ多額ニ要スルカ爲メ勢ヒ本邦硫黃ニ有利ナル地位ヲ與ヘ且本年ハ「ポートランド」ニ於テ製糖業用ノ爲メニ消費スル硫黃ノ需要ヲ増加シ加フルニ本邦内地ニテハ麥稈晒用ノ爲メ硫黃ノ需要近來著シク増進セル等相纏綿シテ茲ニ市場ノ盛況ヲ喚起セリ唯本年十月布哇ニ輸出セル函館硫黃カ同地税關ニ於テ分析ノ結果九九%以上ヲ含有スル故ヲ以テ精製品トシテ課税セラレタルト同十一月桑港ヘ輸出セル函館硫黃亦同一理由ノ下ニ等シク課税セラレタルトハ年内特異ノ事柄ニシテ當時直チニ當業者ヨリ米國政府ヘ異議ヲ申立テタレトモ解決ニ至ラスシテ越年シ爲メニ昨年末ハ米國トノ取引殆ントナク氣配幾分弱カリキ

左ニ函館一噸當リ價格ヲ掲ク

月

次

明治四十五年  
大正元

明治四十四年

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	平
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	均
三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇
三三・五〇〇	三四・〇〇〇	三四・〇〇〇	三四・〇〇〇	三五・〇〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三五・五〇〇	三四・八三〇

錫、安質母尼、亞鉛

以上三品中安質母尼カ大阪市場ニ於テ僅カニ低落セルノミニシテ他ノ二品ハ共ニ騰貴シ殊ニ錫ハ



好況ナリキ今内外市場ニ於ケル一年平均價格ヲ前年ニ比スレハ

種 別	大 阪 市 場			倫 敦 市 場			紐 育 市 場		
	錫	安質母尼	亞鉛	錫	安質母尼	亞鉛	錫	安質母尼	亞鉛
	增	減	增	增	增	增	增	增	增
	一割六厘	一分	三分八厘	一割一分	二分	四分五厘	九分	三分	二分

ノ如ク更ニ各月平均價格及前年トノ對照ヲ示セハ左ノ如シ

錫

月 次	大 阪 市 場 (百斤)		倫 敦 市 場 (二英噸)		紐 育 市 場 (二封度)	
	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
一 月	一一二・五〇〇 <sub>円</sub>	一〇九・五八〇 <sub>円</sub>	一九二・一三〇 <sub>磅</sub>	一八六・六二五 <sub>磅</sub>	四二・五二九 <sub>仙</sub>	四二・二五五 <sub>仙</sub>
二 月	一一二・五〇〇	一〇七・二一〇	一九九・一七〇	一八八・三七五	四二・九六二	四一・六一四
三 月	一一一・七五〇	一〇七・八一〇	一九六・〇六〇	一八〇・七五〇	四二・五七七	四〇・一五七
四 月	一一三・九一〇	一一一・五〇〇	二〇三・〇九〇	一九二・三〇〇	四三・九二三	四二・一八五
五 月	一一九・〇〇〇	一〇八・五〇〇	二一一・一一〇	一九五・〇一三	四六・〇五三	四三・一一五
六 月	一一四・〇〇〇	一〇九・四二〇	二〇九・〇五〇	一九六・三七五	四五・八一五	四四・六〇六

平 均	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月
一二一・三〇〇	一三四・七一〇	一三四・一〇〇	一三三・〇〇〇	一二八・五三〇	一二二・六三〇	一一八・八九〇
一〇九・七〇〇	一一四・九六〇	一一三・一二〇	一〇八・三二〇	一〇七・六二〇	一〇九・二五〇	一〇九・二五〇
二一二・〇九〇	二二九・〇二〇	二三〇・一二〇	二三〇・一七〇	二二七・一〇〇	二二二・〇六〇	二〇六・一〇〇
一九一・〇九〇	二〇一・一八〇	一九六・一〇〇	一八八・二二七	一八四・一七〇	一九一・〇〇〇	一九三・〇二〇
四六・〇九六	四九・八一五	四九・八九一	五〇・〇七七	四九・一三五	四五・八五七	四四・五一九
四二・二八一	四四・六五五	四三・一二五	四一・一八五	三九・七五五	四三・三一九	四二・四〇〇

安質母尼

月 次	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月
大阪市場(百斤)	明治四十五年 大正元年 一七・二五〇 <sup>四</sup>	一六・七五〇	一五・二五〇	一五・五〇〇	一五・二五〇	一四・五〇〇
	明治四十四年 一五・二五〇 <sup>四</sup>	一四・九八〇	一六・七四〇	一六・四八〇	一六・一三〇	一七・〇〇〇
倫敦市場(一英噸)	明治四十五年 大正元年 二七・二五〇 <sup>磅</sup>	二七・一五〇	二七・〇六〇	二七・〇五〇	二七・〇五〇	二七・〇五〇
	明治四十四年 二八・〇〇〇	二九・〇〇〇	三四・〇〇〇	三三・五〇〇	三三・六二五	二九・六八八
紐育市場(一封度)	明治四十五年 大正元年 六・八八〇 <sup>仙</sup>	六・八三〇	六・八六〇	六・九四〇	七・一〇〇	七・二一〇
	明治四十四年 七・二五〇 <sup>仙</sup>	七・六五〇	九・〇〇〇	八・五二〇	七・九九〇	七・四二〇

平	十	十	十	九	八	七
均	二	一				
月	月	月	月	月	月	月
一六・二一〇	一八・五八〇	一八・六八〇	一七・四三〇	一五・〇〇〇	一五・四九〇	一四・八三〇
一六・三七〇	一七・二五〇	一七・四一〇	一六・六六〇	一五・七五〇	一六・六七〇	一六・一四〇
三〇・〇三〇	三九・〇〇〇	三八・〇〇〇	三六・〇二〇	二九・〇二〇	二七・一五〇	二七・一七〇
二九・四五〇	二七・一四〇	二七・一〇〇	二八・〇〇〇	二八・〇七〇	二七・二五五	二九・〇二〇
七・七六〇	九・一八〇	九・三〇〇	九・三〇〇	八・二六〇	七・七〇〇	七・五〇〇
七・五四〇	六・八二〇	六・九二〇	六・九六〇	七・二六〇	七・三六〇	七・三五〇

亞鉛

月	次	大阪市場 (百斤)	倫敦市場 (一英噸)	紐育市場 (一封度)
一	月	明治四十五年 大正元年 一五・五〇〇	明治四十五年 大正元年 二六・六四二	明治四十五年 大正元年 六・四四二
二	月	一九・六〇〇	二六・六六一	六・四九九
三	月	一九・二〇〇	二六・〇四八	六・六二六
四	月	一九・一〇〇	二五・六四三	六・六三三
五	月	一九・二七〇	二五・七九〇	六・六七九
六	月	一八・七五〇	二五・七六三	七・八七七
	月	一七・七〇〇	二四・六一二	五・五二〇
	月	一六・一五〇	二三・八八七	五・四五二
	月	一六・五七〇	二三・二七六	五・五一八
	月	一六・四七〇	二三・〇一六	五・五六三
	月	一六・六〇〇	二三・七四三	五・三九九
	月	一七・六四〇	二四・三七五	五・三四八

各月平均炭價並各主要市場貯炭高ヲ舉クレハ次ノ如シ

## 月別炭價表

平	七	八	九	十	十	十	二
均	月	月	月	月	月	月	月
一八・六七〇	一八・三〇〇	一八・四六〇	一七・七五〇	一七・七九〇	一八・〇〇〇	一八・二九〇	
一七・九九〇	一八・四〇〇	一九・五〇〇	一九・四九〇	一九・六五〇	一八・七五〇	一九・〇〇〇	
二六・四二一	二六・一七四	二六・四四三	二七・〇四八	二七・五四三	二六・八〇四	二六・四九四	
二五・二八一	二五・〇〇六	二六・八〇一	二七・七五〇	二七・二五六	二六・七九五	二六・八四九	
六・九四三	七・一六六	七・〇二八	七・四五四	七・四二六	七・三七一	七・一六二	
五・七五八	五・六九五	五・九五三	五・八六九	六・一〇二	六・三八〇	六・三〇一	

月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次		月次			
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	--	--

[illegible]

備考 東京市場ハ唐津上塊ノ小賣相場、隅田川ノ磐城炭ハ入山並塊炭ノ卸相場ナリ

## 主要市場貯炭高表

市 場		上 半 季		下 半 季	
門 司 松 若	明治四十五年 大正元年	明治四十四年	増減割合 (△印減)	明治四十五年 大正元年	明治四十四年
	英 額 一五二、四〇六 一五二、〇四四	英 額 二二五、一七五 △	日 圓 三、二二〇 〇、四三三	英 額 一〇〇、三九七 九六、五六五	英 額 二二七、九二四 △
			増減割合 (△印減)		増減割合 (△印減)
			日 圓 五、一六 二、九六		

計	宇島	唐津	隅川	小樽	室蘭	釧路
四九〇、〇九六	—	六五、八四四	一四、七一七	三七、二八一	六六、二四三	二、五六一
六〇四、九六一	四、八一	八四、二三二	三〇、七一二	三五、八四四	七二、五六三	五一、二九一
△	△	△	△	△	△	△
一・九〇	—	二・二八	五・二一	〇・四〇	〇・八七	五・二五
五三七、二七〇	三、七八六	五〇、二三四	一六、八二七	二九、一二九	四五、七〇四	四、四五八
五〇九、八〇九	一六、一九六	六九、七九五	三、五三三	二二、四七七	三九、九〇七	二、七四〇
	△	△				
〇・五四	七・六六	二・八〇	三七・六三	二・九六	一・四五	六・二七